

合格体験記

大阪府(中学校・英語)に合格 M.K.さん

Q なぜ教師を目指したのですか？

A 自分のいいところを引きだしてくれた素晴らしい恩師に出会えたこと、教えることや人の世話をするのが好きだったこと、子どもが好きなこと、などの理由からです。

Q 教員採用試験に向けて

①いつから勉強しましたか？

A 教職教養は3年生の9月から課外講座を受講し、それを毎回復習していました。本格的に始めたのは12月からです。12～2月までは教職教養を中心に、3～5月までは一般教養を中心に、6からはまた教職教養を中心に勉強しました。

②勉強する際、どのような教材を使っていましたか？

A 東京アカデミーの参考書・問題集（一般教養・教職教養）
時事通信社「全国過去問」
共同出版「教育法規・時事答申サブノート」 など

③息抜きの方法は？

A 気持ちが不安定になったときは友達を呼び出したり電話をしたりして、気持ちをスッキリさせてから勉強に取り掛かっていました（人からのアドバイスを聞いていると、面接のヒントとなるようなことが得られるので一石二鳥）。散歩をしながら音楽を聴いたり、景色を見たり、考え事をしたりしていました。疲れたらチョコレートやケーキを食べていました。

④眠気対策は？

A 基本的に眠いときは寝ました。ほかには星を見ながら妄想・コンビニに行って雑誌を立ち読みする・コーヒーを飲む・眠気覚ましツボを押さえる、などの対策を講じました。

⑤1日何時間勉強していましたか？

A 日によって変わりますが、平日は一日3～4時間ぐらいでした。授業・ボランティア・バイトに休まず行っていたので、勉強時間は他の人と比べて少なかったと思います。休日は7～8時間ぐらいだったと思います。

⑥大阪府以外の対策は？

A 筆記の対策は何もしていません。面接対策としては、とりあえずその自治体のHPを見て「なぜその自治体を受験するのか」ということだけを考えていきました。

Q 教職ナビについて

①どのような点が良かったですか？

A 一緒に頑張れる仲間やアドバイスをくださる先輩方とのつながりができたこと、そして首藤先生をはじめ、教職教育部の先生方がバックアップしてくださるところです。

②教職ナビでは、どのような活動をしましたか？

A 英語科はとても自由なので、自分の好きなことをさせてもらいました。基本的に英語を使った活動が多かったので、自分が教壇に立った際に参考になるような内容のものばかりでした。たまにある一般教養や教師になった時に役立つ実践的な問題（保護者対応・ロールプレイ）などは英語から離れていたのですが、とても面白かったしいい勉強になりました。

Q 面接対策はどのようにしていましたか？

A 教職ナビの面接対策（全体会）に必ず参加しました。それ以外にも面接対策をしている他教科の活動に参加したり、メンバーを集めて個人的に首藤先生に見ていただいたりもしていました。毎回フィードバックを行い、その日の内容を家に帰って復習できる限り頭に入れました。また注意を受けたことは、日ごろの生活のなかでも気をつけるようにしていました。

Q 来年から教壇に立つわけですが、どのような先生になりたいですか？

A いつまでも学ぶ姿勢を忘れないでいたいです。また褒める・叱るをきちんと使い分け、生徒の良いところを引き出し、伸ばしてあげられるような先生になりたいです。そして英語に興味を持ってもらえるような「魅力ある授業」を実践できるようになりたいです。

Q 後輩にメッセージをどうぞ。

A わたしは神奈川・愛知・大阪の3都道府県の採用試験を受けました。体力や費用面を考えると厳しいかもしれませんが、出来る限り多くの自治体を受験することをお勧めします。もちろんたくさん受験すると、一本に絞るより合格する可能性は高まるのですが、精神的に気楽に受験できるからです。実際わたしはほとんど緊張することなく、試験では自分の力が100パーセント出せたように思います。そしてどこの自治体でも面接や「エントリーシート」というものがあり、自己アピールをしなければなりません。その際に自分を売り込めるように、今のうちに様々なことを経験しておくべきだと思います。また自分の良いところはどこかということも、一度は考えてみるべきです。他者から聞くのも良いとは思いますが、自分でそう思えるところが本当の長所であり、堂々とアピールできる場所だと思います。わたし自身も実際は筆記試験のときは良くなかったし、面接もうまく話せたのかどうか分かりません。しかし高校・大学とさまざまな活動に取り組み頑張ってきましたことが、大阪合格に結びついたのでと思います。これから試験に向けて大変な時期ですが、仲間と切磋琢磨しながら頑張ってください。そして一緒に子どもたちのために頑張らしましょう！！